



## 「都会」

宮崎を離れて、都会に行ってみるといろいろと気づくことがある。

都会とは、人が沢山住んでいるところ、国の中心的な行政府がおかれたり、商工業や文化が発達しているところ。つまり、大きな都市、みやこのことである。

もちろん宮崎市も宮崎県全体の4割に住む中核市である。が、都会とは言い切れないだろう。



(オタフクナンテン 大阪市阿倍野区 2024.3.8)

二十歳になる前に歌った「海の匂い」は廣瀬量平作曲、岩間芳樹作詞の合唱組曲、『海の歌』の4曲目。その歌詞のはじめは

あの春の あの朝  
鈍行列車を待った 無人駅  
おれたちは 都会へ向った…

未成年だった自分はどんな気持ちで都会



(ランタンキュラス USJ 大阪市此花区 2024.3.7)

をイメージしたのだろう。歌詞の続きは、

窓辺につづく 渚から  
顔をそむけたのは  
涙を こらえるためじゃない  
不安が 不安が つのるんだ  
膝にかかえた ポストンバック  
海の匂いが まだ残る



(ビオラ USJ 大阪市此花区 2024.3.7)

都会に向かう青年の期待と不安が入り混じっている。そんなイメージだが、都会に行かなかった自分には想像できなかった。

立体交差の高速道路、高度に発達した鉄道網、はるかに大きな国際空港…。それらを当たり前のように、使っている都会の人々。観光地は外国人で埋め尽くされている…。あらためて思った。私が都会で生きていくことは、困難だなあ…。



(東大寺 奈良市雑司町 2024.3.7)